

情報化社会の教養

校長 井上雅弘

情報技術(I T)革命が勃発してすでに十数年が経過し、いまやプロ野球チームを持つ企業が出現するほどまでに情報産業は繁栄した。一般企業においても I T は、商品開発、生産、物流、営業、財務、経理などの主だった業務プロセスで革新的な威力を発揮している。大量生産の自動車ですえ、顧客の細かい要求に基づき注文と同時に注文情報に従って製造を開始し完成しだいたい顧客の手元に届けられる時代、換言すれば、生産ラインに乗った車は全て持ち主の決まった車という時代が到来しつつある。あらゆる製品が緻密で正確な情報に基づき必要最小限の質を保って必要量だけ生産されるようになると、資源・エネルギーの無駄が省け、環境にも優しくなる。また、 I C タグの登場は、物流における製品・在庫管理で力を発揮するのみでなく、一般消費者の信用と安心を与える役割を果たし、更にはノートパソコンや携帯電話の高機能化および普及と相俟って、何時でも何処でも誰でもネットワークにつながる環境(Ubiquitous社会)の構築を可能にしている。

このような情報化社会において、我々が第一線で活躍するためには I T を活用する知識の修得が不可欠である。しかし、 I T の進歩は激しく日進月歩で新しい技術やルールが作られるので、過去の知識や概念にとらわれているとすぐに立ち遅れてしまう。日々新しい知識を吸収し、継続的に知識を高めて行かなければならない。

情報化社会において必要な知識を継続的に習得するための基本的な力、これが情報リテラシーである。単にコンピュータを操作し、コンピュータ言語を使用する能力を身につけるだけでなく、 I T に出来ること出来ないこと、今出来なくても将来できることを学び、 I T を上手に活用する手法を学ぶことが必要である。それは、読書するとき文字を知っているだけでなく背景となる常識や教養が必要であるのと同じことである。

この度、本校の第 1 演習室と CAD 室のパソコン計 100 台が機種更新される。この更新により、授業中における教員・学生間の意思伝達が容易になり、学内の誰でも 3 D — C A D (Pro/Engineer) が使用でき、個人の情報は H D に格納できるので M O を持参する必要がなくなるなど、情報教育の環境が大幅に改善される。

この新しい環境のもとで、情報化社会に必携の基礎知識と教養をしっかりと身につけて欲しい。